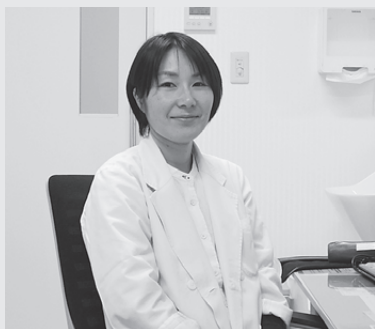


❖形成外科について



浅井笑子医師

今回は、当院の形成外科の非常勤医師の浅井笑子医師から「形成外科について」お知らせします。

「形成外科」とは何をやる場所なのか。聞き慣れない科で、整形外科との違いがよく分からないという方もいらっしゃると思います。

形成外科は身体の表面の生まれつき(先天異常)またはけが(外傷)や病気の治療などで後から生じた組織欠損、変形に対して機能や形態を再建し、社会生活への適応を助けることを目的とする外科です。身体の表面の多様な疾患に対し、手術を中心とした治療を行います。具体的には、おでき(皮

膚腫瘍)や巻き爪、やけど(熱傷)、顔面骨骨折を含む外傷や傷跡の方が日常診療ではよく受診されます。また術後の変形や顔面神経麻痺のほか、加齢による皮膚や筋肉の弛緩によって顔が開きにくくなる病気、リンパ浮腫などの変性疾患や床ずれなどの、なかなか治らない傷に対する治療も行います。そのほか、保険診療外ではありますが、美容的な相談なども扱っています。

身体の表面は紫外線や摩擦、圧力などの物理的刺激を受けやすい場所であり、当初は不具合のなかった皮膚腫瘍が徐々に悪化する危険性があります。特にジクジクしてなかなか治らないなどといった場合は注意が必要です。

形成外科は別名life creative surgeryと称されることがあります。直訳すると「生活を創造する外科」です。身体の表面の何か困っていることについて、その人の生活スタイルに応じた治療を行い援助していきます。皆さんも何か気掛かりなことがありましたら、お気軽にご相談ください。

浅井笑子医師の診療日や受付時間についてはお問い合わせください。

☎公立小野町地方総合病院総務課

☎72-3181

地域おこし協力隊活動記

小野新町の由来と大正期の町並み

皆さん2カ月ぶりです。地域おこし協力隊の菅原です。着任以降、小野町史や過去の広報おのまちから大字名の由来を調べていましたが、小野新町の由来がやっとわかりました。榎木内にある日天清水と八反田にある利根房清水、この2つの清水から仁井町の地名が誕生したそうです。仁井、つまり二つの井(泉や水汲み場の意)ということでしょうか。地名の由来がわかったときは、なかなか感慨深いものがあります。

さて私はこの2カ月間、町長選挙の告知のチラシやトレーラーハウスの看板デザインなどの作業をしていました。

もちろんパソコン作業だけでなく、外にも飛び出して活動しています。先日は県内の地域おこし協力隊と、大正期の小野新町を記した地図

町史の資料から作成した大正期の小野新町の地図です!



を片手に、町並みを見て歩くという試みをしました。道が昔からほとんど変わっていないことや、意外なところに道が抜けていたこと、思った以上に昔のままの町並みが今も多く残っていることがわかり、興味深かったです。特に普賢寺の火伏イチョウの由来となった火事が、本町から出火したということで、その距離に驚きました。まだまだ知らないことが町にあるはず。これからも調べていきます。